

これはアストラゼネカ英国本社が2009年4月30日に発信したプレスリリースの日本語訳です。
日本で未発売の製品については英語標記のままとしています。

AstraZeneca PLC

2009年第1四半期業績

第1四半期の売上は恒常為替レート（CER）ベースで7%増の77億100万ドル

- クレストールの売上はCERベースで35%増。
- 新興市場の売上はCERベースで15%増。
- 後発競合企業数社の撤退により Toprol-XLの米国売上にプラス効果。

CERベースの中核営業利益は19%増の33億6,200万ドル

- 中核営業利益率は売上の伸長、業務の効率化、売却によるその他の収入の増加、および為替益により改善されました

CERベースの1株当中核利益は20%増の1.58ドル

報告ベースの1株当中核利益は39%増の1.48ドル

発表済みの事業再構築プログラムの進捗は予定通り

堅調な現金収支；21億300万ドルの第2回中間配当の支払後、正味負債は昨年12月31日から更に3億2,100万ドル減少

中核EPSガイダンスは変更無し：中核EPS目標は5.15～5.45ドルと従来目標に据え置き

欧州医薬品審査庁（EMA）で医薬品の科学的評価を担当する医薬品委員会（CHMP）がイレッサ承認を勧告

- 勧告は、治療歴を問わず、EGFR遺伝子変異陽性の局所進行または転移性非小細胞肺癌の成人患者を対象にしたものです。

ファイナンシャルサマリー

グループ	2009年 第1四半期 100万ドル	2008年 第1四半期 100万ドル	前年 同期比 %	恒常為替 %
売上高	7,701	7,677	-	+7
報告ベース				
営業利益	3,163	2,257	+40	+37
税引き前利益	3,003	2,143	+40	+36
1株当り利益	\$1.48	\$1.03**	+44	+39
中核*				
営業利益	3,362	2,765	+22	+19
税引き前	3,202	2,651	+21	+17
1株当り利益*	\$1.58	\$1.28	+24	+20

*当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると感じるIFRS(国際財務報告基準)とは異なる補足的な指標として1株当中核利益(Core EPS)も報告しています。2009年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。Core EPSおよび2007年Core EPSと報告ベースの1株当り利益の調整については8ページをご覧ください。

**報告ベースの2008年第1四半期1株当り利益はEthyol™に関する無形資産の評価減(0.12ドル)を含みます。本製品はMedImmune買収の際に取得した製品で、進行中の特許訴訟が解決される前にSun Pharmaceutical Industries Ltd.がリスクのある状態で後発品を発売したことによります。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：「第1四半期、当社の事業は弾力的であることが証明されました。これは、業務効率の改善を達成しつつ、主要製品フランチャイズおよびすべての地域における成長促進計画を着実に遂行した結果です。世界経済の状況における医薬品セクターの2009年見通しに関する当社の慎重な姿勢を反映し、中核EPSの年間目標に変更はありません。

2009年4月30日 ロンドン発

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

第1四半期の売上高は恒常為替レート（CER）ベースで7%増でしたが、為替変動のマイナス影響を受け、報告ベースでは横ばいでした。米国の売上高は、出荷の増加により、前年同期比7%増でした。また、Toprol-XLの競合後発品メーカー2社が市場から撤退したため、Toprol-XL製品の売上が伸びたことがプラスに影響しました。Toprol-XLを除くと、米国市場の売上高は3%増でした。米国以外の市場の売上高は7%増、既成市場の売上高は4%増でした。新興市場の成長は依然堅調であり、15%の伸び率は、米国以外の市場の成長の半分以上に該当します。

第1四半期中核営業利益は19%増の33億6,200万ドルでした。この伸びは売上増加と業務の効率化に加えて、Abraxis BioScience LLCへのAbraxane®共同販売権の返還契約による収益をその他の収入に計上した結果です。報告ベースの営業利益は、主にEthyolの評価減および前年同期の事業再構築費がやや高かったことから、37%増の31億6,300万ドルでした。

第1四半期中核1株当たり利益は、2008年同期1.28ドルに対して1.58ドルで、CERベースで20%増でした。当期の報告ベースの1株当たり利益は、報告ベースの営業利益の増加に影響を与えた上記の要因により、前年同期比39%増の1.48ドルでした。

研究開発の最新情報

当社の研究開発パイプラインの最新情報は2008年通期の業績報告とともに発表しています。当社のウェブサイトwww.astrazeneca.comの投資家向け情報のページをご覧ください。

前回更新以降の開発状況は以下の通りです：

Symbicort

2月27日、当社は、米国食品医薬品局(FDA)が慢性気管支炎および肺気腫を含む慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の気道閉塞の1日2回維持療法薬としてSymbicortを承認したことを発表しました。

4月6日、当社は、6～11歳の小児喘息患者の長期維持治療に使用するSymbicort 加圧式定量噴霧式吸入器(pMDI)について、米国食品医薬品局(FDA)よりComplete Response Letter (CRL)を受領したことを発表しました。この文書で、6～11歳の小児患者に対するSymbicortの各成分(ブデソニドおよびホルモテロール)の適切な用量を確立し、個々の成分が本合剤にいかにかき与するかを立証するのに必要なデータが提示されていないとの指摘がありました。当社はこのCRLを検討中であり、期限内に当局に回答する予定です。

ONGLYZA™

4月1日、当社とブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、FDAの内分泌代謝薬諮問委員会(Endocrinologic and Metabolic Drugs Advisory Committee)が、成人の2型糖尿病治療薬のONGLYZA™ (saxagliptin)の新薬承認申請を裏付けるデータは、比較対照薬と比べ、心血管リスクは許容範囲であると判断したことを発表しました(賛成票10に対して反対票2)。

また、当諮問委員会は、市販後試験を実施しONGLYZA™の心血管プロファイルをさらに確認するよう勧告しました。当社とブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、大規模な無作為化比較対照市販後試験を含む一連の第III相後期試験および第IV相試験を実施し、本剤の長期の有効性、および心血管プロファイルの特徴を更に明らかにする予定です。我々は現在、FDAと協力して、市販後試験のデザインの最終化を行っています。

なお、本剤の新薬承認申請は2008年6月30日にFDAに提出しました。

4月23日、当社とブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、FDAがONGLYZA™の新薬承認申請(NDA)の審査には更なる時間を要するとの見解を示したことを報告しました。そして、FDAはPrescription Drug User Fee Act (PDUFA：処方薬ユーザーフィー法)による期限を2009年4月30日から2009年7月30日まで延長しました。両社は今後もFDAと緊密に連携し、本剤の審査に協力する予定です。

セロクエルXR

2009年4月8日、FDAの精神薬諮問委員会(PDAC : Psychopharmacologic Drugs Advisory Committee)は、大うつ病性障害(MDD)および全般性不安障害(GAD)の治療薬として当社が提出しているセロクエル XR の追加新薬承認申請 (sNDA) の安全性と有効性を審査しました。

FDAは臨床的な事柄に関して独立した専門家の指導と勧告を得るため、頻りに諮問委員会を招集します。FDAはこの指導に従う必要はありませんが、審議中の申請や他の公衆衛生問題に関する最終決定の際には、この助言を考慮に入れるのが普通です。

今回、諮問委員会は次のような結論に達しました。:

- セロクエル XR は、単独療法としても補助療法としてもMDDに有効であり、GADには単独療法として有効であることが示されている。
- セロクエル XR はMDDの補助療法としての安全性は許容範囲にあることが示されている。
- セロクエル XR は、MDDの広範囲の治療の単独療法薬として、安全性が許容範囲にあることは示されていない。
- 同委員会は、本剤がMDDの単独療法薬として特定のケースにおける安全性が許容範囲にあるかどうかは判断しなかった。
- セロクエル XR はGADの単独療法薬として、安全性が許容範囲にあることは示されていない。

当社は、両sNDAに関して今後もFDAと協議を進める予定です。

クレストール

当社は4月に、JUPITER試験で示された心血管イベントリスクの有意な減少を受けて、クレストールの添付文書の改訂についてFDAにsNDAを提出しました。欧州での承認申請は当第1四半期の後半に予定しています。

イレッサ

4月23日、当社は、欧州医薬品審査庁(EMA)で科学的評価を担当する医薬品委員会 (CHMP) が、分子標的経口抗がん剤イレッサの承認を支持する肯定的な見解を述べたことを発表しました。

CHMPは、治療歴を問わず、EGFR-TK(上皮成長因子受容体-チロシンキナーゼ)の遺伝子変異陽性の局所進行または転移性非小細胞肺癌(NSCLC)の成人患者へのイレッサ使用に対し承認勧告を行いました。

当社は、白人NSCLC患者集団のデータを蓄積するために、Follow-up Measure Studyを実施する必要があり、試験のデザインおよび主要評価項目について、CHMPと協議中です。

CHMPの肯定的な見解を参考に、EUでの販売承認を交付する欧州委員会が最終措置を決定します。

生産性の向上

発表済みの事業再構築プログラムに関連して、第1四半期の事業再構築・相乗効果プログラム費用7,200万ドルを計上しました。計画が完全に実施されれば、2010年末までに21億ドルの経費削減が見込め、2013年にはさらに4億ドルの経費削減が予想されます。

すべてのプログラムは発生費用と経費削減の両面ともに順調に推移しています。

今後の見通し

当期の堅調な売上実績は、計画の着実な実行と *Toprol-XL* 市場に関連する米国内での当社に有利な影響を反映しています。

世界経済は依然として困難な局面にあります。当社経営陣は、こうした状況が医薬品セクターと当社に与える影響を評価する際、引き続き慎重な姿勢が必要であると考えています。通年での中核EPSのガイダンスは5.15～5.45ドルの範囲を維持すると確信していますが、この範囲での実際の数字は、世界経済の下方圧力の影響の程度により左右されます。

この中核EPSのガイダンスは当社主要通貨の2009年1月の平均為替レートに基づいており、実際の第1四半期の業績もこの為替傾向とほぼ一致しました。目標値では、2009年第2四半期以降の平均為替レートが、利益ガイダンスの基礎となる為替レートから大きく異なる可能性を考慮していません。米ドルに対する当社主要通貨の為替変動を見込んだ売上高および利益の推定値は、2008年の通年業績報告とともに、当社のウェブサイトでご覧になれます。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)。

消化器

	第1四半期		CER (%)
	2009 100万ドル	2008 100万ドル	
Nexium	1,192	1,238	+2
Losec/ Prilosec (オメプラール)	211	252	-15
合計	1,427	1,510	-

- Nexiumの米国の第1四半期の売上高は前年同期比4%減の7億500万ドルでした。小売部門の販売量は3.6%伸びましたが、平均実勢小売価格は約9%低下しました。
- 米国以外のNexiumの第1四半期の売上高は12%増の4億8,700万ドルでした。西ヨーロッパはドイツで35%減でしたが、全体で売上は8%増でした。新興市場は中国の好調な業績などで売上高は19%増でした。
- 米国のPrilosec (オメプラール) の第1四半期の売上高は、2008年第2四半期に発売された40mg製剤の後発競合品の影響を受け、62%減でした。
- 米国以外でのLosec (オメプラール) の売上高は、新興市場では14%増でしたが、全体では4%減でした。

循環器

	第1四半期		CER (%)
	2009 100万ドル	2008 100万ドル	
クレストール	969	772	+35
Seloken/ Toprol-XL	288	190	+59
Atacand	323	346	+6
Plendil	61	66	-5
ゼストリル	47	59	-14
合計	1,810	1,571	+24

- 米国でのクレストールの当期売上は前年同期比35%増の4億7,800万ドルでした。米国スタチン市場に占めるクレストールの総処方量は24%増で、市場成長率5%の4倍以上増加しました。クレストールは先発のスタチン製剤のなかで、唯一シェアを拡大しました。米国内の総処方量に占めるシェアは2009年3月時点で10.3%に達しました。
- 米国以外のクレストールの第1四半期売上高は34%増の4億9,100万ドルでした。処方量の増加率は市場成長率の4倍でした。カナダでは26%増、既成市場では34%増でした。西ヨーロッパでは堅調な成長がみられ (22%)、フランスおよびイタリアでは処方量のシェアが20%を超えました。オーストラリアで96%、日本で61%、新興市場で41%の伸びを示しました。クレストールはメキシコでは売上高、販売量ともにスタチン剤のマーケットリーダーの地位を獲得しました。
- 当社の後発品を含むToprol-XL関連製品の米国内売上高は175%増の1億7,600万ドルでした。この増加には、後発品2製品の市場撤退が影響しています。これらの製品が市場に復帰するのかどうか、復帰するとすればその時期、新たな後発品の承認時期などについての確実な情報を入手するのは困難です。当社は、患者さんのニーズに応えるためToprol-XLおよび同製品の当社の後発品の供給を増やすよう最善の努力を続けます
- 米国以外のSelokenの第1四半期売上高は1%増でした。これは、新興市場では14%成長しましたが、西ヨーロッパで26%減少したためです。
- 米国のAtacandの当期売上高は2%減でした。米国以外の市場では、既成市場と新興市場がともに同程度の伸びを示し、全体で7%増でした。

呼吸器および炎症

	第1四半期		CER (%)
	2009 100万ドル	2008 100万ドル	
Symbicort	515	471	+24
パルミコート	292	411	-26
Rhinocort	64	80	-15
Oxis	12	17	-12
アコレート	16	18	-6
合計	935	1,040	-1

- 米国でのSymbicortの第1四半期売上高は前年同期比125%増の9900万ドルでした。これは喘息治療薬としての成長とともにCOPDの追加適応症が承認、上市されたことによります。定量合剤の新規処方量に占めるSymbicortのシェアは2009年3月に12.8%に達し、併用療法を新たに開始する患者でのシェアは現在20%を超えています。
- 米国以外の市場でのSymbicortの第1四半期売上高は4億1,600万ドル（前年同期比13%増）、西ヨーロッパで12%増、新興市場で19%増でした。
- 米国のパルミコートの売上高は37%減の1億7,300万ドルでした。パルミコート吸入液の売上高は42%減少しました。Teva社後発製品の処方量のシェアは当期に52%であり、予想を下回りました。このため、パルミコート吸入液への影響は第2四半期も継続すると予想されます。
- 米国以外のパルミコートの当期売上高は3%減の1億1,900万ドルでした。

オンコロジー

	第1四半期		CER (%)
	2009 100万ドル	2008 100万ドル	
アリミデックス	463	430	+14
カソデックス	236	316	-27
ゾラデックス	232	255	-
イレッサ	68	58	+10
Faslodex	59	56	+14
ノルバデックス	20	18	+6
Ethyol	4	14	-71
合計	1,083	1,165	-3

- 米国のアリミデックスの第1四半期売上高は20%増の2億1,900万ドルでした。アリミデックスの総処方量は3%減で、これは市場縮小率の約2%とほぼ一致します。
- 米国以外のアリミデックスの第1四半期の売上高は10%増の2億4,400万ドルでした。西ヨーロッパでは10%増、新興市場では21%増でした。
- 米国でのカソデックスの当期売上高は18%減の5,400万ドルでした。総処方量は5%の減少でした。4月の市場排他保護期間満了後の後発品の市場参入を見込んで在庫処分を行いました。
- 米国以外のカソデックスの当期売上高は、29%減の1億8,200万ドルでした。西ヨーロッパでは、前年第3四半期に始まった後発品との競争を受け、売上高が58%減少しました。
- イレッサの売上高は10%増の6,800万ドルでした。中国および日本における前年比はそれぞれ42%増、12%増でした。
- Faslodexの売上高は米国で4%増、他の市場で23%増でした。

ニューロサイエンス

	第1四半期		CER (%)
	2009 100万ドル	2008 100万ドル	
セロクエル	1,125	1,050	+11
ゾーミッグ	101	107	+1
合計	1,432	1,378	+9

- 米国でのセロクエルの売上高は14%増の8億ドルでした。セロクエルXRの適応症に新たに双極性うつ病と双極性躁病が加わり、セロクエルの製品群がマーケットリーダーとして抗精神病薬の総処方量に占める31.5%のシェアは、当期も概ね同様でした。総処方量も3%増加し、この増加分の80%超はセロクエルXRによるものでした。
- 米国以外のセロクエルの売上高は、後発品との競合によりカナダで68%減少しましたが、西ヨーロッパで19%増加したため、全体では6%増でした。
- ゾーミッグの売上高は米国で2%減の4,300万ドル、米国以外で3%増の5,800万ドルでした。

感染症・その他

	第1四半期		CER (%)
	2009 100万ドル	2008 100万ドル	
Synagis	545	519	+5
Merrem	202	213	+8
FluMist	2	-	n/a
合計	792	787	+5

- Synagisの売上高は5%増の5億4,500万ドルでした。米国では3%増加し、4億7,100万ドル、米国以外では17%増加し、7,400万ドルでした。

地域別売上

	第1四半期		CER (%)
	2009 100万ドル	2008 100万ドル	
北米	3,891	3,723	+6
米国	3,624	3,401	+7
ROWの既成市場*	2,834	2,973	+4
ROWの新興市場	976	981	+15

*ROW（その他）の既成市場には西ヨーロッパ諸国（フランス、英国、ドイツ、イタリア、スウェーデンなど）、日本、オーストラリアおよびニュージーランドが含まれる。

- 米国の売上高は7%増加しました。Toprol-XLを除くと3%の増加でした。前年同期の在庫処分の増加により、潜在需要成長率は報告ベースの売上成長率を下回りました。 Crestor および Symbicort が当期の潜在需要の成長に大きく寄与し、Pulmicort Respules および Nexium の売上高の減少を吸収しました。
- その他の既成市場の売上高は4%増でした。西ヨーロッパでは、後発品との競合によりカソデックスの売上が減少しましたが、 Crestor、セロクエル および Symbicort の成長により、全体で2%増を記録しました。日本では Crestor および抗腫瘍薬の売れ行きが好調で10%増加しました。オーストラリアでは Crestor が原動力となり、14%増加しました。
- 新興市場の売上高は全体で15%増加しました。この増加の1/3以上は Crestor と Nexium の好成績によります

が、広範囲の製品でほぼ同程度の業績が得られました。欧州の新興市場の当期売上高は16%増加し、中国では35%増加しました。

営業およびファイナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて中核ベースの恒常為替レート（CER）ベース。以下の指標はGAAPとは異なる指標であり、当社の業績を理解しやすくするために採用しています。中核ベースの財務指標では、事業再構築および相乗効果プログラムの費用および引当金、償却、企業買収に伴う重要な無形資産の評価減、米国での現在および将来にわたるメルク社との提携打ち切りに関する取り決めに関連する償却費などの特定項目が除外されます。

第1四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位である。加重平均株数も100万単位である。

	報告ベース 2009	事業再構築費 用100万ドル	MedImmune 社償却	無形資産 評価減	メルク社償却	中核 2009	中核 2008	前年同期 比 %	CER %
売上高	7,701	-	-	-	-	7,701	7,677	-	7
売上原価	(1,383)	31	-	-	-	(1,352)	(1,470)		
売上総利益	6,318	31	-	-	-	6,349	6,207	2	8
売上高の%	82.0%					82.4%	80.9%	+1.5	+0.9
物流費	(64)	-	-	-	-	(64)	(66)	(3)	16
売上高の%	0.8%					0.8%	0.9%	+0.1	-0.1
研究開発費	(980)	-	-	-	-	(980)	(1,182)	(17)	-
売上高の%	12.7%					12.7%	15.4%	+2.7	+1.0
販売一般管理費	(2,376)	41	76	-	23	(2,236)	(2,345)	(5)	5
売上高の%	30.9%					29.1%	30.6%	+1.5	+0.5
その他の収入	265	-	28	-	-	293	151	94	111
売上高の%	3.4%					3.8%	2.0%	+1.8	+1.9
営業利益	3,163	72	104	-	23	3,362	2,765	22	19
売上高の%	41.0%					43.6%	36.0%	+7.6	+4.2
正味支払利息	(160)	-	-	-	-	(160)	(114)		
税引き前利益	3,003	72	104	-	23	3,202	2,651	21	17
支払い税額	(859)	(21)	(30)	-	-	(910)	(782)		
税抜き後利益	2,144	51	74	-	23	2,292	1,869	23	19
少数株主持分	2	-	-	-	-	2	(2)		
純利益	2,146	51	74	-	23	2,294	1,867	23	19
加重平均株主数	1,447	1,447	1,447	1,447	1,447	1,447	1,457		
1株当たり利息	1.48	0.03	0.05	-	0.02	1.58	1.28	24	20

売上高は報告ベースで横ばい、恒常為替レート（CER）ベースで7%増でした。為替損により売上高は7%減少しました。

第1四半期中核ベースの売上総利益率は、CERベースで前年同期比0.9ポイント増の82.4%でした。メルク社への支払い額の減少（0.7ポイント）および継続的な業務効率化と混合要因（1.1ポイント）が、支払ライセンス料の増加（0.9ポイント）によって一部相殺されました。

第1四半期中核ベースの研究開発費は、後期パイプラインプロジェクトの増加により費用が増大しましたが、継続的な研究開発生産性の向上によって相殺され、CERベースで前年から横ばいの9億8,000万ドルでした。

第1四半期中核ベースの販売費及び一般管理費は、新興市場への継続的投資と一般管理費の特定費用のフェージング（段階的調整）が業務効率化によって一部相殺され、前年同期比5%増の22億3,600万ドルでした。

中核ベースのその他の収入は、主にAbraxane®の売却により、前年同期比1億4,200万ドル増の2億9,300万ドルでした。

中核ベースの営業利益は33億6,200万ドルで、CERベースで19%増、報告ベースで22%増でした。為替変動により、中核営業利益は3%増加しました。前年と比較して、ドルはユーロに対して15%強く（売上高と費用が減少）、スウェーデンクローナに対しても33%強く（費用が減少）、英ポンドに対しても38%強くなりました（費用が減少）。CERベースでの中核営業利益率は4.2ポイント改善して、売上高の43.6%でした。これは売上

高の増加、総利益率、販売及び一般管理ならびに研究開発の効率化、およびその他の収入に計上したAbraxane®の売却益によります。

第1四半期中核EPSは1.58ドルで、CERベースで20%増でした。これは、中核営業利益の増加および税率の低下が正味支払利息の増加によって一部相殺された結果です。報告ベースの中核EPSは4%の増を含み、24%増でした。

報告ベースの営業利益は、事業再構築・相乗効果費用の減少に加えて、2008年第1四半期に計上したEthyol評価減(2億5,700万ドル)を反映し、CERベースで37%増の31億6,300万ドルでした。報告ベースの1株当たり利益は1.48ドルでした。

受取利息と支払利息

当期の正味支払利息は、前年の1億1,400万ドルに対して1億6,000万ドルでした。これは主に、後述の公正価格利得の逆転、利率低下による受取利息の減少ならびに年金契約の正味支払利息の増加が、負債比率の低下による支払利息の減少によって一部相殺された結果です。

前年末以降にクレジットスプレッドが減少したため、当期の正味支払利息には正味公正価格損失2,100万ドルを含みます(2008年第1四半期は4,400万ドルの利得)。2008年の通年業績報告で述べた通り、2008年には主に2つの長期債に関連して、正味公正価格利得1億3000万ドルを計上しました。これらの債権は変動利付債に交換され、IFRSによる公正価格基準により計上されています。この会計処理では、社債もこれに伴う金利スワップも時価により表示されます(時価による評価差額は損益計算書に報告)。各社債の時価は市中利率の変動を反映し、概ね相殺されますが、クレジットスプレッドの変動も反映します。当社は、クレジットスプレッドが減少し続ければ、2008年の利益は2009年に更に逆転すると予想しています。

税金

実効税率は前年同期29.8%に対して、当四半期は28.6%でした。2009年の年間税率は現時点では29.5%程度と予想されます。

キャッシュフロー

営業活動による現金収入は、前年同期の23億9,100万ドルに対して、当四半期は22億2,700万ドルでした。堅調な業績により営業収入は1億9,000万ドル増加しましたが、支払税額が3億2,500万ドル増加しました。

投資活動による正味現金支出は、前年同期29億3,700万ドルの支出に対して、当四半期は7,400万ドルの収入でした。この変動額30億1,100万ドルの内訳は、主に2008年の部分償還の一部としてのメルク社への支払い26億3,000万ドル、当期に発生したAbraxane®共同プロモーション権の売却益2億6,900万ドル、ならびに短期投資および定期預金による正味キャッシュフローの変動額9,900万ドルです。

株主への現金還元額は、2008年からの第2回中間配当額21億300万ドルでした。

不利な為替変動から本年度のフリーキャッシュフローを保護するために、オプションベースの為替リスクヘッジを実施しました。こうしたヘッジ手法は、現状の為替レートからの極度の変動が発生した場合にのみ保護することを目的としています。公正価格の変動やヘッジの実施に要する費用は利益に計上されるため、本年度の利益にある程度の変動をもたらす可能性があります。極度の不利な為替変動が生じない限り、この変動は大きなものではないと予想されますし、その場合もヘッジによって利益が生じる可能性が高くなります。

資本と負債の構造

2009年3月31日現在、有利子負債総額(ローン、短期借入金および当座借越を含む)は116億3,400万ドル(2008年12月31日現在118億4,800万ドル)で、このうち16億2,800万ドルは返済期限が1年以内の負債です(2008年12月31日現在9億9,300万ドル)。返済期日には現在の現金残高44億4,100万ドルと事業活動による現金収入により、これらの負債を返済する予定であり、借り換えの必要はありません。正味有利子負債額は、2008年12月31日から3億2,100万ドル減少し、68億5,300万ドルでした。

株式の買い戻し

2008年に発表したとおり、当グループ株式買い戻しプログラムを一時停止しました。この結果、第1四半期には自社株の買い戻しはありませんでした。当四半期にはストックオプションの行使を考慮し、総額600万ドル

で20万株を発行しました。

2009年3月31日現在の発行済株式総数は14億4,800万株です。

カレンダー

2009年4月30日	2009年年次株主総会開催
2009年7月30日	2009年第2四半期・上半期業績発表
2009年10月29日	2009年第3四半期・9カ月累計業績発表

最高経営責任者
David Brennan